

統計的に探究することができる児童が育つ

授業の在り方

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

日比野 浩規

VUCA な時代を生き抜く児童にとって、将来、エージェンシーを発揮しながらデータを活用することが、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていくための重要な要素の一つであると捉えた。学校教育においては、その授業の在り方を明らかにすることが喫緊の課題であると考え、その具体を示すために本研究を行った。

6年生 32名を対象に、エージェンシーの側面として「変革を起こすための目標設定」「責任をもった判断や選択の発信」、統計的な問題解決の側面として「計画の構造化」「試行錯誤サイクルの発生」を研究の手立てとして実践を行った。

実践後の変容として、エージェンシーの側面として、生活や社会の問題に対して、データを活用して改善したいことを具体的に記述できるようになったり、エージェンシーに関する意識調査において、肯定的な回答が優位に多くなったりした。また、統計的な問題解決の側面として、日常生活や社会においてデータを活用して解決することができる調査問題について、統計的探究プロセスの各段階に着目した記述に有意差が見られた。